

れは大部分国費でまかなわれ、その使途は各研究所に全く任されているのである。しかもその予算はすべての工業製品に特別に賦せられた税金でまかなわれる仕組みになっている。この他に民間会社との Contract research も引受け、しかも一年後には発表の自由をもっているのである。このようなことはわが国にも参考になることだと思った。ここの研究内容についてはドイツの学会誌“Stahl und Eisen”その他に発表されているから省略する。

この日夜の飛行機で再びパリに着いたのである。契約しておいた管の前に泊ったホテルが何かの手違えで部屋がなく近くのホテルに紹介されてやっと落付くことができた。翌朝目をさましたのが午に近く十日余りの強行軍で疲労困憊して起ることもできず午後まで体を休めていた。それから大使館に行き翌日 Chatillon の原子力研究に再度行く手続きを取り、西村大使以下松井公使・河野参事官の皆さんにジュネーブ会議の様子を詳しく説明したのである。深い関心をもっておられたからである。丁度パリに各方面の方々が来ているからというので翌日午餐会に招待していただくことになった。

翌日は Chatillon の見学を午前中で切り上げ午餐会に間に合せた。政治家・学者・官吏・芸術家など各界の方々6名が招待され、日本の一流の料亭で食べるような日本食に久振りに舌鼓を打ち、よも山の話に花が咲いた。



第 6 図 パリ、エッフェル塔からセーヌ河を望む

帰途その席で知合った彫刻家の木下氏と Klebel Ave. にある UNESCO 本部に行き、また絵画の店を2軒歩いてみた。夜は河野参事官夫人の案内でオペラコミック座に「ペリュシーの“Pelléas et Mélisande”」のオペラを聴きに出かけた。本物のフランスオペラを聴きドイツオペラとあらゆる点で対象的である点非常に面白かった。翌朝 L'Aluminium Francais に電話したが土曜日のせいか通ぜず、折角紹介状をもって来ていたが訪問することを断念した。土曜・日曜はパリ見物に終始し日曜日の夜空路ロンドンに入ったのである。早ある記の原稿を書きながら途中までで与えられた紙面が尽きてしまった。以下次号にまわさせて頂くことにする。(1956. 4. 10)

次号予告(6月号)

観測ロケット特集号

ロケット・エンジン部品のセラミックコーティング	河島千尋 村田順弘
観測ロケットにおける構造上の諸問題(その2)	池田健
微分解析機による観測ロケットの性能の計算例	渡辺勝 三井田純一
ロケットの垂直上昇性能と最適推力計画	秋葉鏖二郎
ペンシル・ロケット燃焼室の音響特性	銭福星
観測ロケット用計器検定用の回転試験機	池田健康 古田敏康
ロケット用三角翼の振動試験	森大吉郎
ロケット用テレメータ	猪瀬博 黒川兼行
銅管用アンテナ	須田徳蔵 阿部永雄
題未定	坪井善勝・池田秀雄 矢代秀雄・吉田陽雄
微小変位の電圧変換	立本二郎
Qメータによる箔厚測定	丹羽登・奥野裕
超音波遅延回路における往復多重反射	尾上守夫
自動車試験台によるころがり抵抗の測定	平尾取・大谷建一 小野田邦重・永野稔 加藤元春

表紙説明

振れ水晶型粘度計は、×方向に軸を持つ水晶丸棒(長さ50mm、径5mm)に4枚の電極をつけて、振れ振動をさせるもの(振動数40kc)を用い、これを測定液体中につけたときの振動子定数の変化から、その液体の粘性を求めるものである。
左は比較のために用いた Ubbelohde 型の毛管式粘度計で、恒温水槽の中で測定を行う。

頁	段	行	種別	正	誤
表2		下5	目次	1% Sb合金の	10% Sb合金の
39	左	上13	(9)式	$w = w'_0 \rho^c (1 + k_r u) \exp S(T - T_0)$	$w = w'_0 \rho^c (1 + k_r U) \exp S(T - T_0)$
"	"	上15	(10)式	$\rho = \frac{(Cw'_0 A_0 \theta^c \rho^c (1 + k_r u) \exp S(T - T_0)) / (C_w A_0)^{1/(1-c)}}{C_w A_0}$	$\rho = \frac{(Cw'_0 A_0 \theta^c \rho^c (1 + k_r U) \exp S(T - T_0)) / (C_w A_0)^{1/(1-c)}}{C_w A_0}$
43	左	下6	本文	$t - C_d v^2$	$t - C_s v^2$
59	右	下8	本文	銅管の中	銅管の中
"	"	下5	"	銅管内	銅管内
100			第9図(c)説明	(C)V _r グリッド (5V/cm)	(C)V _r グリッド (2V/cm)
102			第3表(b)	τ ₃₄ ……285	τ ₃₄ ……885
104	左	第3図	説明部分	合金の70°C	合金の40°C
"	右	第5図	"	合金の40°C時効に伴う	合金の時効に伴う
"			文献(6)	E. H. Robert	E. H. Robests
108	"	下2	筆者紹介	(中西公弘)東映製作所 研究員	(中村日色)研究員 東映製作所